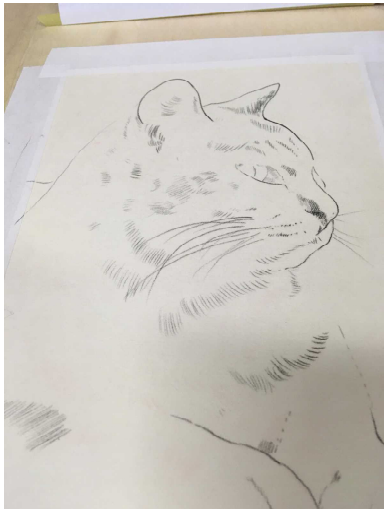


# 日本古来の画材「水干<sup>すいひ</sup>絵具」を使って　－好きな動物を描く－

はじめに　好きな動物のスケッチや写真など、資料を用意しましょう。  
できるだけ、鮮明で、構造（つくり）が分かることが大切です。

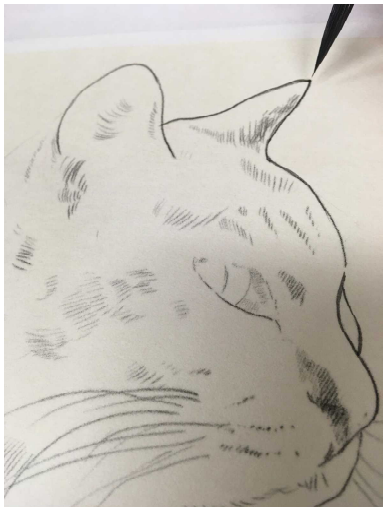
1　紙に下絵を描く（または転写する）。



## ●転写する

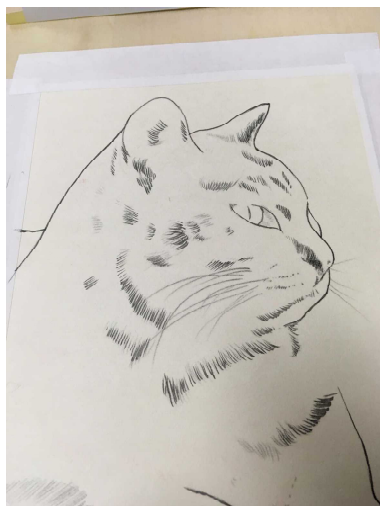
カーボン紙や墨で描いた線が濃く残るので、線を残したくないところは点描程度にしておく。「あたり」「検討」をつけておく。

2　線が必要な所を墨で描く。



## ●骨描き　墨で線を描く

輪郭線を描かず、色面で形を表す方法もありますが、ここでは「骨（こつ）描き」の方法で紹介します。



輪郭をとることにとらわれず  
「いい線」を。

回り込むところや重なりあう  
ところを確かめながら描きま  
しょう。

「つくり」がどうなっているか  
意識しましょう。



### ●水干絵具を溶く

①水干絵具、2、3粒 と水を数滴入れ、水干絵具をつぶしてから指でよく練る。水干絵具は瓶から直接ではなく、紙に出してから皿へ。  
(出し過ぎたとき、水干絵具に余計なものが付着しないように気をつけ瓶に戻す)

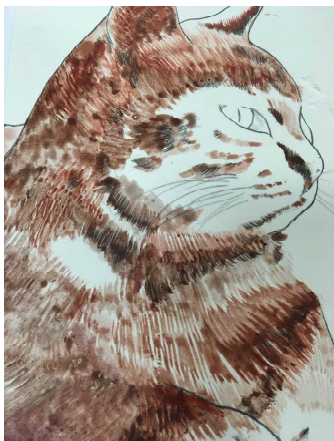
②膠（にかわ）を入れる。-にかわは接着剤の役割-

※水彩絵具等と違い、慣れないうちは混色の調整がしにくい  
岩絵の具と比較すると、水干絵の具は比較的混色が自由

### 【絵の具のあれこれ】

水干絵具とは？

泥（どろ）絵具と呼ばれる絵の具の一種です。古くから、山から採掘した土を「水」で精製して不純物を取り除き、板状に干したものが絵の具として使われてきました。岩絵具と比べ、混色性にすぐれています。現代では胡粉や白土を人工染料で染めたものもあります。



### ●塗る、描き進める

上から色を重ねることを頭に置いておく

※好みや技術にもよるが、濃い色を最初に塗ると調整しにくい。上から別の色を塗って調整するのが難しい。

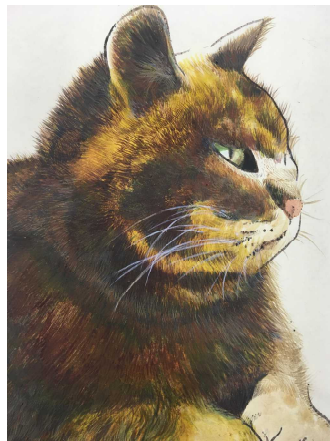
※明るくしたいところは塗らないで残すとよい

（色は重ねるほど、暗くなる）

ハイライトとして白を塗る方法もあるが、塗らないところが最も明るく見える

### 【こんなところでつまづくかも？】

- ・どう描けばよいか、迷ったときは写真等、資料を見て「つくり」を確かめましょう。どこがどうなっているか、見てみましょう。
- ・水分を含んだときと、乾いたときの色の感じが違うので、乾燥させて確かめながら進めましょう。



【作例】

### 【道具への関心】

道具についても、関心をもって取り扱えるようにしたいものです。画筆は高価なものです。

よい画筆だと、思い通りにねらった線が描けて「楽しいな」「また描いてみたいな」という気持ちになります。穂先はとても重要です。大切に扱いましょう。

☆膠は冷えると固まります。膠を使った筆はぬるま湯で膠をゆるめ、弱い水流で洗いましょう。

### 【SDG s 環境に配慮した創作活動を】

- 岩絵具を使うとき：岩絵具は鉱物が原料で、水道に流すのは推奨できません。余ったら上ずみの水を捨てる作業を繰り返して膠を抜き、再利用するか、岩絵具をバケツに集めて捨てましょう。